

果実販売動向

販売課 田中瑠偉



5月の果実動向は、二極化での展開となりました。イチゴが終盤を迎えて売り場は縮小される中で、スイカについてはカット売りを中心に売場が拡大され、入荷量の少なから単価高での推移となりました。メロンの売り場も拡大され

たほか、輸入果実が売場のメインとなつていますが、GW連休中の外出自粛の反動もあり、果実の消費は比較的順調に推移しました。サクランボやマンゴー等の施設物については、母の日需要から引き合いの強い状況となりました。

一方、リンゴについては気温の上昇とともに、サンふじの内部褐変によるクレームが多いことから、内部障害についての詳細説明と商品交換・返品を表示をしながら、値ごろで企画販売していましたが、店舗によっては販売中止や、大幅な売場縮小、冷蔵ケースへ移行さ

れるなど、さらに荷動きが滞り、厳しい販売となりました。

有袋ふじやジョナゴールドについては、中・小玉果を中心に品質が安定していることから、売場が確保されていますが、大玉果については比率の高さと品質懸念から下げ基調の展開となり、リンゴの総体量の多さから前年を大幅に下回る単価推移となりました。

今後、スイカ・メロンについては梅雨による低温の影響やこれまでの高値疲れで荷動きが鈍化し、下げ基調で推移することが予想されますが、引き続き安定した入荷が見込まれることから売場は維持される見通しです。

輸入果実については、安定した入荷から引き続き値頃感のある販売となっていることから、キウイ・オレンジ等を中心に堅調な販売が見込まれます。リンゴについては

イメージが悪いことに加えて、売場が狭いことや小売価格が高いことから、大玉果を中心に荷動きはさらに停滞し、中・小玉の引き合いが予想されます。

当JAでは王林が終了し、残すところサンふじや有袋ふじ、シナノゴールド、ジョナゴールドの約6万ケース（5/31現在）の販売となります。

終了まで、品質管理の徹底と売場を確保しながら、相場の維持を図ります。



出荷予定に合わせてサンふじの検品作業が行われる

単価は全農あおもりデータ（5月31日累計）在庫数量は県りんご果樹課作成（4月末）

品 種	サンふじ	ふ じ	王 林	ジョナ	その他	合 計
単 価 (円)	2,459	3,740	2,684	3,090	2,692	2,572
前 年 比 (%)	77	82	89	81	91	81
在 庫 数 量 (ト)	13,418	26,559	5,047	11,267	5,685	61,976
前 年 比 (%)	1,761	132	174	164	210	185

いきいき女性部通信

事務局 桑田歩



女性部では、5月12日に弘前市立相馬小学校の3年生の児童12名に、りんご栽培授業としてりんごの授粉作業の指導をしました。

授業では農業振興課の米澤松太主任が先生を務め、花の拡大写真を使って器官名や授粉作業の重要性を説明してくれました。

その後児童は、授粉セットを持ち、作業に取り掛かりました。参加した田澤真由美部長は、児童らと一緒に花粉のつける場所やつけ方の説明をしながら、一緒に作業をしました。指導している時の児童らは真剣な表情で、その様子を見た田澤部長はとても嬉しそうでした。

作業終了後、児童から「1つの花に何回も花粉を付けるとりんごが大きくなりますか」「1本の樹で授粉作業はどの時間がかかりますか」などといった質問が寄せられ、児童らはりんご栽培に興味を持ち始めた様子でした。



花の器官名をクイズ形式で学ぶ児童ら



中心花を教えながら指導する田澤部長

田澤部長と児童らの授粉作業動画です。
(wi-fi 環境での読み込みをオススメします。)

作業終了後に田澤部長からジュースのプレゼント▶



天ぶら界の巨匠に教わる 野菜天ぶら

わたしのミカタ

家の光

“Ienohikari”

コロナで外出ができないので『家の光』をしっかり読んでいます。知らなかったことがいっぱいです

毎号興味のある特集が掲載され、読むほどに新発見があり楽しく学べます

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船原町11
TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

家の光	定価(税込)
普通月号	629円
付録月号(1・4・5・7・9月号)	922円
付録月号(家計簿付き12月号)	1,027円

農業振興課主任 米澤 松太



○りんご作業 (6/15~7/15)

管内のりんごの肥大状況は、5月31日現在でふじが17.5ミリ(管内平均)と5日程度早い生育となっております。

今後は、高品質果実生産のため成らせ過ぎに注意し、適正着果に努めて下さい。

○黒星病に注意しましょう

黒星病の生態は気温が20℃以上になると動きが停滞すると言われるのですが、低温で降雨がある場合は胞子が飛散されるため注意が必要です。

黒星病の被害葉・被害果は菌密度低減のため、摘み取り適正に処分して下さい。散布ムラを少なくするため適正な散布量と散布速度を守り、降雨がある場合は雨前防除に努めて下さい。

○水稻

苗の活着後は、平均気温が高い時は浅水にして分けつを促進し、逆に低い時は深水にして低温障害の発生を防ぎましょう。なお、水の掛け流しはしないようにしてください。

移植後の水管理は、天候の良い日は2~3cmの浅水にし、低温が続くときは5~6cmのやや深水にして、分けつを促進して下さい。また、除草剤の効果を持続させ

るため、田面がでてくる時は、水を静かに足してください。

○袋を掛けてみませんか？

りんごのつる割れ軽減や品質向上のために、作業面に考慮しながら有袋栽培に取り組んでみてはいかがでしょうか。

袋かけは早いほど着色向上の効果が高まります。そのため、遅くとも7月中旬までに袋かけを終了して下さい。被袋期間は最低でも75日以上を確保して下さい。(平年75日~85日)

※ジョナゴールドは落花30日頃から実施
※ふじは落花35日後頃から実施

また、遮光性の高いものは、除袋時に日焼けが発生しやすくなり、高温時にも障害が発生する恐れがあるので注意しましょう。

袋を掛ける際にはすす斑・すす点病に注意して下さい。袋かけ前の薬剤散布は果実にも十分付着するように丁寧に散布し、散布後5日以上経過して袋をかける場合には再度実洗いを実施して下さい。

管内のりんご肥大状況 (5月31日調査)

	湯口	紙漉沢	相馬	平均	昨年	平年
ふじ	19	17	16.4	17.5	12.0	13.6
王林	24.1	18.5	20.3	20.9	15.4	16.0
つがる	20.6	16.2	17	17.9	13.8	15.1

※単位は (mm) 平年値は過去10年間の平均値

散布計画

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
7	500㍓	7月上旬	オキシラン イカズチWDG ウララDF カルシウム剤	500倍 1500倍 4000倍	○輪紋病の重要防除時期となるので、有効な薬剤を降雨前に散布して下さい。
8	500㍓	7月中旬	キノンドー顆水 ユニックス顆水 トランスフォームF カルシウム剤	1000倍 2000倍 4000倍	○褐斑病対策としてユニックス顆水2000倍を加用。

りんご病害虫防除暦 (第7回目~8回目)

所員 千葉翔平



いつもJA-SSSを変わらずにご利用いただき誠にありがとうございます。

平素から携行缶のガソリンの購入（混合油も含む）の際に、身分証の提示と使用目的の確認及び記録の記入、スタンドスタッフによる携行缶の詰替えにご理解、ご協力いただき大変ありがとうございます。また、最初の一度だけではなく、購入の都度身分証の提示、使用目的の確認のため、記録用紙への記入のご協力をお願いします。使用される容器におきましても消防法適合品ではない物の場合は購入をお断りいたしております。ご理解のほどよろしくお願い致します。

詰替え用の携行缶は5ℓや10ℓ、20ℓは当スタンドで販売しておりますのでお気軽にスタンド従業員にお申し合わせください。

今年も洗車祭りを7月2日から8月27日の毎週金曜日に開催します。ティアラコートプレミアムとシルキーW撥水コートが定価より500円引きでご利用いただけます。ぜひこの機会に洗車してみてくださいか。

その他イベント開催については、店頭に掲載しますので、お立ち寄りの際はお見逃し無しようお願いいたします。

そして、皆様にお願いがあります。洗車のタオルの盗難が多発しております。使用後は必ず返却くださるよう重ねてお願い申し上げます。これからも当スタンドのご利用をスタッフ一同お待ちしております。

7月 イベントカレンダー

日	月	火	水	木	1	金	2	土	3
					1	2	3	4	5
					6	7	8	9	10
					11	12	13	14	15
					16	17	18	19	20
					21	22	23	24	25
					26	27	28	29	30
					31				

青年部通信

事務局 小野 朋宣



青年部では、5月14日にもち米の田植えと相馬ごども園の草刈りと畑の耕起を行った。

この日は17名の部員が集まり、田植え班とごども園班に分かれ、同時進行で作業を進めた。

田植え班は、まず畦畔や周辺の草刈り、隣接する園地への漏水防

止の為の波板を差し込む作業等を行った。

植える際には、昨年は水が溜まって深い箇所には上手く植える事が出来なかった事から、水抜きを早めに行つて対策をした。しかし、今年も問題になっていた箇所に植えた苗は浮いてきていた。

今年は溝切りなどで水切りを早める等の対応を検討し、無駄なく植えることが出来るように改善したいと役員一同話していた。

また、もち米は例年とは違う床土で播種を行った為生育が心配されていた。出来上がった苗を見て、「例年に比べ苗は短い、問題はない生育になっていて良かった。」と安堵の表情を浮かべていた。



協力して力強く波板を差し込む部員ら

田植えの様子をドローンで撮影しましたのでご覧ください。

(wi-fi 環境での視聴をお勧めします。)



順調に苗が植えられていく様子を見守る部員



今年も愛情たっぷりに
田植えをしました。
今年も沢山
買って下さい!!